



子どもにツケをまわさない！【無所属 36歳】

埼玉県議会議員（戸田市選出）

ふみひと

# すがわら文仁



46号 発行者：菅原文仁 戸田市本町 5-12-26-2F TEL/FAX 048-299-4949（刷新の会戸田支部）  
ホームページ sugawarafumihito.com メールアドレス sawayaka@sugawarafumihito.com

※すがわらレポートは、定期的に発行する気軽な県政報告です。

菅原文仁（すがわらふみひと）【略歴】昭和50年7月30日 生まれ、36歳 戸田市立美谷本小学校 美笹中学校 埼玉県立伊奈学園総合高校 日本体育大学卒業（教員免許取得）明治大学大学院修了（公共政策学修士）元社会体育会社（現NPO）代表 平成17年 1,993票を賜り市議会議員当選（第2位）平成21年 4,143票を賜り市議会議員再当選（戸田市歴代1位）平成23年 16,350票を賜り県議会議員初当選（戸田市歴代1位）【所属】県議会 会派「刷新の会」（無所属を中心とした9名会派）幹事長代理 青年地方議員の会会員 若手政治家養成塾事務局長 戸田市体操協会会長 埼玉坂本龍馬会幹事 【趣味】読書 史跡巡り B級グルメ探し【特技】バク転 のび太並みの早寝【座右の銘】上杉鷹山翁の「なせばなる、なさねばならぬ、なにごとくも」【家族】父、母、妻（昨年末に結婚しました）【夢】努力した人が報われる社会を実現すること！

## すがわら文仁の活動記録



### 県政報告会

11月23日（水）  
戸田市文化会館3階  
当選以来初となる県政報告会を開催。地元の方々をはじめ、多くの市民の皆様にご参加いただき、県政の課題や政策についてお話ししました。



### 救う会署名活動

12月11日（日）  
浦和駅西口  
北朝鮮に拉致された日本人を救出する埼玉の会の署名活動に参加。17名の拉致被害者、200名の特定失踪者の救出のため、北に対する圧力を求めてこれからも活動していきます。



### 委員会質疑

12月16日（金）  
企画財政常任委員会  
長年要望されていたパスポート申請が戸田市に移管され、今年10月より戸田市で行なわれることとなります。周知徹底と二度手間防止について質問し、提言しました。



### 出初式と観閲

1月8日（日）  
戸田市消防出初式  
震災以降、益々存在が重要になっている消防の役割。日頃から市民の生命と財産をお守り下さる消防関係の皆様にご感謝と労いの意をお伝えし、今年一年の活躍を祈念しました。



### 県内医療施設視察

1月24日（火）  
さいたま赤十字病院  
会派視察でさいたま赤十字病院に来ました。建て替えの経緯や課題など、様々な角度で質問して、医療拠点整備の必要性を改めて感じました。

## 復興元年。日本改新を埼玉から！

平成24年の幕開けに際し、心よりお慶び申し上げます。昨年は東日本大震災により被災した地域の復興、原発事故による被災拡大や風評被害の打撃、さらに東北のサプライチェーン寸断、計画停電や電力不足、歴史的な円高による産業空洞化、止まらないデフレ、雇用不安等々、我が国は多くの困難に直面した一年でした。

厳しい経済情勢ですが、今年は何が何でも日本を再生させる年です。中でも私たちの埼玉県政は、来年度からの「新5カ年計画」が3月議会で審議、議決した後にスタートする予定です。多選自粛条例により、最後の任期を務める上田県政の総決算として、新たな計画で様々なプロジェクトが始まります。上田知事の3大公約であるエコタウンプロジェクト、ウーマノミクス、健康長寿プロジェクトの推進をはじめ、八ツ場ダム、埼玉新都心8-1A街区の医療拠点整備といった個別の大型事業も、しっかり議論すべき課題です。限られた予算の中で、二重行政などの無駄を省きつつ、教育、環境、医療、福祉、危機管理防災、都市整備、警察などサービスの質を維持向上させて参ります。また埼玉は地勢的にも、東北の玄関口として大きな役割を担っております。復興需要を県内の経済や雇用に繋げて、県民の経済を立て直すことも大切です。

私といたしましても、埼玉県の将来ビジョンを示した公約集「埼玉県政改革八策」各分野による県政改革の推進、そして戸田市と埼玉県の強力なパイプ役として、活力ある埼玉県を築く若手政治家としての役割を果たして参ります。被災地の復興と埼玉の経済回復なくして日本の再生なし。という気持ちで頑張りたいと思います。

私が所属する刷新の会としては、これまで通りに政党や政局とは一線をおきつつ、県民党の立場で声なき声を拾いあげ、政策本位で、埼玉県政の改革と刷新に力を注いで参ります。また2月から3月にかけて招集される予算特別委員会の中で、会派を代表して私が一問一答の議論させて頂く機会をいただきました。1期生らしく、失敗を恐れずに完全燃焼で挑みます。そして議員報酬20%カットの継続や、定数削減等の議会改革をはじめ、行政のスリム化、県内産業振興など、強い埼玉県の財政を築くための提言も継続して参ります。

ところで、国会に目を向けますと、何も前に進まない政治の停滞を見るにつけ、国家の将来を憂い、憤りを隠せない日々が続いております。綱領すらない民主党の唯一の中心軸だったマニフェストは破綻し、ブレる歴代総理の判断で、原発事故対応、普天間問題、デフレ対策、TPPなど、押し寄せる国家課題を治める事ができずに混乱を招くばかりか、内部分裂と迷走を続けて政権にしがみついています。また野党も野党で、一票の格差是正や定数削減、公務員改革、財政再建、デフレ脱却、税と社会保障の一体改革など、建設的、本質的な協議や議論なしに、いたずらに政局に走っています。そうしている間にも、国民の所得格差は開き、雇用も低迷、努力は報われず、年金や社会保障は崩壊寸前という状況です。

このような国民総不信状態において、ビジョンなき増税を叫び、今そこにある課題に向き合わず、議員自らは痛みを避ける。それで国民は納得するのでしょうか。私は疑問です。なぜなら政治は「信なくば立たず」だと考えているからです。嘘をつかない。約束は守る。過ちは素直に謝る。相手の身になって考える。小学生でもわかるような事です。与党も野党も、今は国民の信頼を取り戻すために行動を起こす事が必要です。

さいごに、私が大好きな故事で、日本書紀にも書かれる「民のかまど」を紹介します。

ある時、仁徳天皇が高台にのぼって眺めると、家々から煙が立っておらず、天皇は、民がかまどでの煮炊きにも事欠いていると察しました。天皇はそれから三年間、年貢を免除され、その間衣類も新調せず、住まいが荒れて雨漏りやすきま風が吹き込んでも修理すらしませんでした。そして3年が経過して、再び高台から眺めると、炊事の煙があちこちの家から立っていました。それを見て天皇は「私は豊かになった」とおっしゃいました。皇后は「衣服には穴があき、屋根が破れているのに、なぜ豊かになったといえるのですか」と聞くと「国家とは民が本であり、その民が富んでいるのだから、我も富んだということだ」と申されました。やがて人々が「宮殿は朽ち壊れています。それに比べて国民は豊かになり、もう年貢を納めさせてください。宮殿も修理してください」と願いましたが、天皇はさらに3年延長されました。その後、人々は自発的に老人を助け、材料運びに精を出し、競争して宮殿づくりに励み勤しみ、瞬く間に宮殿は出来上がりました。それ以降、仁徳天皇は聖帝（ひじりのみかど）と呼ばれたそうです。

国民を思うリーダーの行動が信頼につながり、国家が豊かになったこの逸話。高い徳に基づく仁の政治と、それに答える国民の勤労。まさに我が国が誇るリーダー像ではないでしょうか。こういった強く、公共心にあふれたリーダーに国民は希望を託していくのだと思います。

今年は解散総選挙があると言われております。停滞を止めるためにも、信頼を再構築するためにも、そんな覚悟を持ったリーダーの出現を期待しております。

もちろん私も、若輩者ではありますが、理想の地方政治の姿を追い続けて参る所存です。これからも子供にツケをまわさない政治、そして初志貫徹の一念で、戸田市民の代表として、改革を進めて参りますので、ご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成二十四年 一月

埼玉県議会議員 菅原文仁

## 定例会の一般質問（その2）

### 小児医療の充実

#### Q. 「#8000」の時間拡大について

すがわらの質問・提言	保健医療部長
<p>埼玉県は核家族率62.3%と日本一高く、18歳未満がいる世帯の核家族割合が82.5%という核家族大県です。親の不安解消と救急医療の負担軽減のため、小児救急電話相談事業、通称「#8000」事業は好評です。</p> <p>「#8000」は、保護者が休日と夜間、急な子どもの病気に対して、受診すべきかを電話で医師や看護師に相談するもので、埼玉県では、月曜日から土曜日までは（19時～23時）、日曜・祭日・年末年始は（9時～23時）まで受け付けています。平成19年の事業開始以降、相談件数は増加の一途で、20年の約23,000件から22年には約31,000件まで増加しています。</p> <p>平成22年度の1日当たりの相談件数は約86件、毎日電話が鳴りやまない状況です。利用者からは「電話が繋がらない、時間帯を深夜にして欲しい」という要望が多くあります。また一方、近年の救急出動件数も増加の一途であり、平成22年度に過去最高288,689件（前年比+9.6%増）出動抑制と医療の質確保は喫緊の課題です。（8割は軽微な症状といわれる）そこで、子育て世代の要望に応え、不必要な緊急救急医療を減らすためにも、相談時間を深夜23時から朝までの時間帯に延長してはどうでしょうか。</p> <p>「#8000」の深夜相談事業は、大阪府、福島県、青森県など多くの府県で行っております。ぜひ埼玉県でも実現していただきたいと思えます。保健医療部長にお伺いします。</p>	<p>小児救急電話相談「#8000」は、埼玉県看護協会に委託し実施しており、小児医療に精通した経験豊富な看護師が相談に対応しています。</p> <p>平成22年度は31,000件を超える相談があり、夜間の相談の約6割が午後7時から9時までの時間に行われております。</p> <p>相談の約4分の3は自宅での対応が可能な内容であり、軽症患者の集中で疲弊する小児救急病棟の負担軽減や保護者の不安解消につながっております。午後11時以降への相談時間の拡大につきましては、利用者ニーズや、他県の相談体制、件数などの状況を調査し、検討します。</p>

#### 【すがわらの視点】

深夜の相談体制充実は、ただ単に行政サービスを拡大せよ、というのではなく、今の救急医療の危機的状況を改善し、コンビニ化を防ぐ教育的な意義もあろうと思えます。埼玉県の場合は相談員が皆有資格者などの経験者で質も良いので、そのノウハウを人員拡大に役立てて時間帯を拡大させれば、いざという時に的確なアドバイスにより安心できる相談体制が整うと思えます。これからも他会派と連携して積極的に取り組みます。

### 教育問題

#### Q. 中高一貫教育の推進について

すがわらの質問・提言	教育長の答弁
<p>埼玉県では平成15年から中高一貫教育を導入し、私の母校伊奈学園総合高校と小鹿野高校では、今年3期生が卒業しました。</p> <p>「中高一貫教育第1期生に係る調査結果について」のアンケートによれば、親子とも大変高評価であり、成果が現れていると率直に感じました。中高一貫校拡大は、これまでの経緯の中で慎重に検討されている現状もありますが、結論を出して推進していくべきではないでしょうか。併設、連携のそれぞれの良さを生かし、せめて東西南北の地域に連続性のある教育環境をつくっていただきたいと考えます。</p> <p>教育長のご見解をお伺いします。</p>	<p>本県で中高一貫校を導入してから、来年度10年目を迎えます。中高一貫校の設置に当たっては、平成14年6月定例会における附帯決議で「試行的・モデル的に限定すべきもので、効果や成果を十分に検証するなど、慎重な対応が求められる」とされております。</p> <p>そこで、今年度、中高一貫教育の成果と課題について検証を行うため、学識経験者や産業界の代表など外部の方を含む「中高一貫教育検証会議」を立ち上げたところでございます。今後は、会議の検証結果を受けた上で、中高一貫校の在り方について判断してまいります。</p>

#### 【すがわらの視点】

埼玉県の中高一貫教育は、平成14年の県議会の付帯決議という「呪縛」によって他県に大幅な遅れを取っています。6年間の一貫した教育課程と学習環境を作る事により、例えば最終学年は受験対策に特化して授業に取り組むなど、個性を活かしながらも合理的で効果的な学習を進める事が期待できます。賛否ある中高一貫教育ですが、私は、教育の機会均等と生徒の教育環境の選択肢を増やすためにも推進すべきと考えます。



**医療環境の充実**

**Q. 全国最下位の医師不足解消の取り組みについて**

**すがわらの質問・提言**

埼玉県の人口 10 万人当たりの医療従事者の数は 139.9 人（対人口比で全国最下位）です。また極端な医師の地域偏在は特に課題になっております。

※図 1 に示しているように、全国平均の人口当たりの医師数に比較して、従事者数で見ても、ほぼ無医村の東秩父村はじめ、10 分の 1 以下、4 分の 1 程度の自治体が数多くあります。

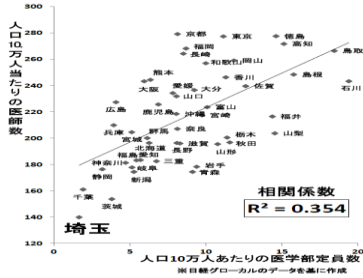
**医師の地域偏在**

地名	人口10万人あたり医師数	
	実数	従事者数
吉見町	18.5	18.5
ときがわ町	15.6	15.6
東秩父村	28.0	0
横瀬町	53.9	43.1
栗里町	50.7	42.3
神川町	47.1	40.3
上里町	51.2	48.0
旧騎西町	54.6	49.7
旧北川辺町	54.4	46.7
旧大利根町	48.8	48.8
宮代町	44.1	41.1
旧葛瀬町	43.5	38.7
越生町	46.8	46.8
<b>埼玉県</b>	<b>146.1</b>	<b>139.9</b>
<b>全国</b>	<b>224.5</b>	<b>212.9</b>

※図 1 医師の地域偏在（すがわら作成）

そこで、県内に医大を増やす事が出来れば、医師は増加するはずですが、それを実証できるかどうか、人口 10 万人当たりの医学部の定員数を X 軸に置きまして、Y 軸には人口 10 万人当たりの医師数、医学部定員と医師数を調べて、相関関係があるか※図 2 を作りしました。

**医師数と医大生の相関関係**



※図 2 医師数と医大生の相関関係（すがわら作成）

この 2 つの相関を見ますと、0.354 という相関係数が導かれます。私は無視できない相関が導かれたと思っております。埼玉県は医学部の定員が一番少なく、医師数が一番少ないので、左の一番下に位置しております。仮に下位 5 県で相関係数を導きますと、さらに数値は上がります。つまり、県内に医学生を増やせば医師が増えるという、ある程度の相関が認められるのではないのでしょうか。他にも、埼玉県は医師の地元高校出身率 10.8% と全国の平均の 3 分の 1 程度です。これも医師の定着を阻害する要因になっています。

さて、そこで私は短期、中期、そして長期の 3 つの提案をいたします。

まず、短期的な「戦戦」として、医師の働く環境を徹底的に良くすることです。

勤務医の労働環境は大変劣悪であり、埼玉県医師会の調査では週 59 時間以上働く勤務医が 40% 以上もあり、勤務医は当直もあり、過酷な労働です。勤務医が働く環境をさらに改善して、埼玉で医療をやりたいと思える環境づくりを徹底すべきだと思います。さらに、医師が働きたいと思うような、意欲をかき立てるような高度かつ専門的な医療を導入することも重要です。

次に、中期的な「戦術」として、県外地域の医大に地域枠を拡大することです。地域枠とは、地域医療を担う医師を確保するために医大に特別な定員枠を設ける制度のことですが、現在埼玉県の地域枠は、県内唯一の医大である埼玉医大の 10 名だけです。

**上田知事の答弁**

今、菅原議員から医師不足の解消に向けた多くのご提案をいただきました。

まず、「労働条件の緩和と同時に高度・専門的な医療の導入により医師の誘因を因れないか」のご提案ですが、全くそのとおりです。まさしく、質の高い医療を提供したり、多様な症例、そうしたものを学ぶことができる病院に医師は集まります。そして、通勤可能な便利などころにどうしても医師は集まる傾向にあります。ゆえに、よりローカルな所に医師が行かない。従って、自治医科大学ができて、一定程度の期間を強制的に地域に入るというような仕組みも出来上がったところで、今回の小児医療センターとさいたま赤十字病院のさいたま新都心への立地構想も、そうした優秀な医師の皆さんを集めるといのでしょうか、引き留める、あるいは新たに誘い込むという、言葉が適切かどうかは分かりませんが、そういう意味合いもないことはありません。このほか、小児科医や産科医への分娩手当に対する補助を行ったり、処遇改善をそれぞれ細かくやっているところですが、それでも、苦戦が続いているという、こういう状況でございますので、ご提案をさらに生かすようにしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

次に、大学医学部への地域枠の設定についてであります。県では平成 22 年度の 5 人から今年度は 10 人へと枠を拡大しています。ご提案の県外大学への地域枠の設定については、地域枠は既にすべての都道府県で設定されておりますので、大学の定員拡大そのものにも限界がありますから、今後新たに要請をしていくのは基本的には難しいのかなというふうにも思っております。今後、県外の医学部に進学する本県出身の学生に対して手厚い奨学金などを与えることで引き留めるといような方法もあるのか、こんな研究もなければいけないのかというふうにも今考えているところです。

**すがわらの質問・提言**

これを県外の大学にお願いして特別地域枠を設定してはいかがでしょうか。つまり医学生を外から獲得するということです。

例えば、東京医科歯科大学は長野県に 2 人、茨城県に 2 人特別地域枠を設定しております。茨城県は、平成 24 年度に県内 9 名の地域枠以外に、県外の大学に 11 名の地域枠を設定し、計 20 名を獲得する動きです。埼玉県もまずは今年度茨城県並みに 20 名を目指していければいかがでしょうか。

そして、長期的な「戦略」として、埼玉県に医大を創出することです。

知事は、県立医大の設置についてイニシャルコストで 700 億円、ランニングコストで 65 億円程度の投資が必要という見解を示されました。確かにこれは高い買い物です。ただし、700 万県民全員で 10 年間かけて負担したら、ひと月の県民一人あたりの負担は約 90 円です。また優良な納税者である医師を含め 1,300 名の雇用も確保できます。県立医大の設置を推進すべきと考えますがいかがでしょうか。

また、県立医科大学の設置が（制度の問題等で）難しいのであれば、代替案として現在医学部を持つ大学を誘致することや、新設の私立医大を含めた私大の誘致を検討することも考えられます。そういった、あらゆる可能性を捉えて、この医師不足解消を検討していただきたいのですが、知事のご見解をお伺いします。

**上田知事の答弁**

次に、埼玉県に医大を創設することについてです。現在、国は医学部新設を認めておりませんが、検討会を設けて医学部新設についての議論をしている最中です。早急にそうした結論が出るかどうかまだ分かりませんが、ただ県議会でのご指摘も挙がってきておりますので、昨年度から医学部新設の可能性についての検討を始めたところで、医学部新設については課題を整理した上で、国の動向もしっかり踏まえて、その可能性について検討していきたいと思っております。

議員お話しの中立大学医学部の代替案ですが、国が医学部新設を認めない段階ですので、医学部が無い大学の誘致はなかなか実現が難しいのかなと思います。

しかし、既存の私立大学医学部を誘致することは可能なアイデアであるかと。このように思っています。

**医学部 「私大誘致は可能」**

**知事、代替案に言及**

県内の医師不足対策として、上田知事は県立医科大学の設置が難しい場合は、代替案として現在医学部を持つ大学を誘致することや、新設の私立医大を含めた私大の誘致を検討することも考えられると述べた。

「誘致は可能」という言葉は、県民の生命と財産を守る私たちの責任は果たせないと考えています。埼玉県は高齢者の増加率が全国一位でもあり、20 年後の医療を想像すると、本当に心配になります。今、我々が死に物狂いで医療を充実させなければならない、という思いで医療の量と質の確保を考えていこうと思う。

※朝日新聞記事

**会派の動向**

**【刷新の会が提出した意見書】**

意見書の要旨	結果
デフレ不況時の増税に反対する意見書	不採択
増税ありきの社会保障制度改革に反対する意見書	不採択
<b>我が国の歴史と伝統を重視した皇室典範の議論を求める意見書</b>	不採択

※太字はすがわらが発案・作成した意見書です。

**【一般質問】**

我が会派からは、石田昇議員（旧鳩ヶ谷）と井上航議員（和光市）が登壇し、帰宅困難者対策について「交通事業者への協力要請や企業への備蓄などの対策を盛り込んだ条例づくりを」と提言し、執行部から「実行性のある条例制定に向け検討を進める」と答弁がありました。また知事の公約、ウーマノミクスについて「県庁内の推進体制強化と経済効果を計る指標を設定すべき」と提言し「組織作りと実態を反映できる測定方法を検討していく」旨の答弁をいただきました。今後とも引き続き、議会改革に全力で取り組み、県民の皆さまにとって県政が身近なものとなるように全員野球で取り組みます。

議決した主な議案

【議会提出議案の主な概要】

Table with 2 columns: 議案番号 (38号), 内容 (埼玉県私立学校助成審議会条例). The content describes the ordinance for supporting private schools in Saitama Prefecture.

【知事提出議案の主な概要】

Table with 2 columns: 議案番号 (109号), 内容 (平成22年度埼玉県の一般会計及び特別会計決算の認定). It includes a detailed financial statement with columns for '前年比' (Previous Year Ratio) and '実質収支' (Substantive Revenue/Expenditure).

【平成22年度決算に対するすがわらの意見】
平成22年度は、歳入総額、歳出総額とも3年ぶりに前年度を下回り、実質収支は48億円の赤字となりましたが、県税収入は個人所得の減少により個人県民税が減収になるなど、3年連続で減収の状況です。

Table with 2 columns: 議案番号 (113号), 内容 (平成23年度埼玉県一般会計補正予算). It lists budget adjustments and major projects, including medical care and disaster relief.

Table with 2 columns: 議案番号 (115号), 内容 (知事の権限に属する事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例). It details amendments to regulations regarding the mayor's administrative powers.

Table with 2 columns: 議案番号 (118号), 内容 (埼玉県自転車の安全な利用の促進に関する条例). It describes the ordinance aimed at promoting safe bicycle use in Saitama Prefecture.

市内空間放射線量の速報

【戸田市の除染基準】 戸田市では、1時間あたりの放射線量の基準を、0.23マイクロシーベルトと定めております。測定結果が0.23μSv/時を超えた地点については、速やかに除染作業を実施しています。(戸田市HPより抜粋)

【市内の公園】 ※お問い合わせは戸田市役所まで。441-1800

Large table showing radiation measurement data for various parks in Utsunomiya City. Columns include '測定場所' (Measurement Location), '測定位置' (Measurement Position), and '測定値 μSv/時' (Measurement Value μSv/h) for 5cm and 50cm distances.

※測定高さ100cm